



このコーナーでは各地で動物の保護活動に取り組んでおられる方々を紹介しています。今回は前回に引き続き、野生動物を不利な立場に追い込む「鳥獣保護法改正」反対運動のため活動している埼玉のグループ「生命の輪」代表タシナ・ワンブリさんからのメッセージを紹介致します。

人と野生動物との共存のために 鳥獣保護法「改正」を考える ネットワーク



—— 本足（人間）を造るため、すべての生きものたちが集まりました。皆、自分から一部分をとって、人間を造りました。しかし、「心」だけだ足りませんでした。ちょうどその少し前、あまりにも悪く、あまりにも悪行を働きすぎたコヨーテが、他の生きものたちに殺されました。生きものたちは顔を見合わせ、「良くないぞ」、「少しやバイじゃないかい?」、「あとで困るだろう」と言いましたが、他の心が無かったので、仕方が無くその悪いコヨーテの心を二本足に入れました。

鳥獣保護法改悪反対の運動をしているなかで、この古い話を思い出すのは当然なことでした。行政も科学者たちも「科学的計画的保護管理」について主張しています。でも彼等が言うのは、彼らが決めた数を超える生きものたちを殺すことだけです。どんな生きものでも、誰が生きるのか、誰が死ぬのかについて、自分たち同士、なかからわかっています。しかし、二本足は、ただ数で生死を決める。それがく科学的な部分です。く計画的なというのは、計画的に、徹底的に殺すことでしょう。現在存在している鳥獣保護法でも、生きものたちが生きるためには不十分でしたが、この「改悪」が通れば、法律に基づいて殺すことが今以上にやりやすくなる。農村では、生きものたちは、「邪魔だ、いなくなればよい。開発の邪魔だ。」

とされています。法律が「改悪」されて、市町村で自由に生きものたちを殺せるようになれば、各地で血祭りが行われるに違いありません。

くどっちみち改正されるので・・・>という人々もいます。そのことをこれから殺される無数の生きものたちに言ってもらいたい。（殺されるのが人間だったら、く反対しても仕方がない>という言い方は、ナチを許した言い訳と同じになります。）反対しなければ、止めどのない虐殺になります。二本足の心は熊の心ではなく、コヨーテのものであることを忘れてはいけません。環境庁になびいて、安全な立場に吸い込まれる人やグループもあるでしょう。環境庁の仕事をしてく調査するものもあるでしょう。その結果は駆除につながることをわかってもらいたい。決して生きものたちのためにならないのです。なぜならば、この「改悪」は自分たち二本足を制限することが一言も含まれていませんから。二本足の勝手に、他の生きものたちの数をきめて、殺

すことをその生きものたちや生態系のためだと嘘をいう。さすが悪知恵のコヨーテ・・・法改悪を通すための儀式である公聴会・小委員会の他、秘密会議もやっています。妥協することは楽なものだ。自分たちにとって楽ですが、妥協していることの内容は、自分たちではなく、生きものたちの生死なのです。二本足が自分たちのことばかりを気にして、妥協すれば苦しむのは生きものたちです。エライ先生がたは神様ではない。行政の目はネズミの眼。近いところしか見えない。二本足の心は、悪さで殺されたコヨーテの心だから・・・

砂糖にまぶされた毒であるく科学的計画的保護管理>を食らわず、生きものたちを大切に思って、妥協しないもの、駆除を止めさせたいと願う人達も大勢います。はっきりした法改悪反対運動も健在です。二万人以上の方々が署名に参加しています。これからも、各地で厳しい眼を光らせながら、共に！



ネットワーク事務局窓口
タシナ・ワンブリ（生命の輪）
355-0227
埼玉県比企郡嵐山町千手堂497-4
TEL: 0493-82-2864